

民間医療機関が手がける 地域の在宅当直センターの紹介

庄子 育子

24時間対応のプライマリ・ケア

平日の夜や週末は時間外専門サービスと連携



日本でも在宅医療
分野で同じような
取り組みを行なっ
ている事例あり

||

医療法人悠翔会が
創設した地域の在
宅当直センター
「救急診療部」

医療法人悠翔会の組織概要

開設：2006年8月
理事長：佐々木淳氏

機能強化型在宅療養支援診療所10拠点

東京都：新橋・新宿・渋谷・品川・葛飾・足立

神奈川県：川崎

埼玉県：川口・越谷

千葉県：柏

当直医師を配置

医師が自宅でオンコール待機

当直機能を3カ所に集約

首都圏最大級の在宅診療チーム

常勤医師33名、非常勤医師43名

在宅患者数3000名（施設1400名）

年間紹介患者数1400名

年間死亡760名・在宅看取り率70%

●2013年7月から、地域の在宅療養支援診療所に対して、診診連携を通じた休日・夜間対応の支援を開始

→悠翔会の当直機能を地域で共有する仕組みに

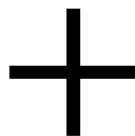
地域の在宅当直センター「救急診療部」

救急診療部（地域の在宅当直センター）

- 雇用している医師は当直専門。日勤の医師とは別に雇用しており、のべ20人程いる。30歳代中心、若手の医師が多い。勤務は多い医師で週3日ぐらいで、そのほかに週1日、月1日など働き方は様々。大病院の総合診療部などにいる医師が多い。
- 夜間当直は医師とドライバーの2人体制。休日（日中）は看護師を加えた3人体制。ドライバーも診療アシスタントとして診療に同行する。
- 連携のコストは下記の通り

連携範囲と患者数に応じた
待機料

（☞スライド6）



緊急対応で発生した
診療報酬

（電話再診料・往診料・各種加算など）

待機料

佐々木理事長のスライド（一部改変）

往診のみ依頼
 (ファーストコールは主治
 医が受けて往診が必要な
 ケースのみ当直医に往診を
 依頼)

連携の範囲は、主治医による電話対応の有無により2通りあります。
 連携の範囲により、緊急対応医の待機料負担が異なります。
 連携による緊急対応は、日単位でも月単位でも依頼できます。

		電話再診	往診	緊急対応医の待機料	
				日中 09:00~18:00	夜間 19:00~08:00
A	主治医バックアップ	主治医 による対応	緊急対応 担当医	100円/人/日	50円/人/晩
B	主治医フルサポート	緊急対応 担当医	緊急対応 担当医	200円/人/日	100円/人/晩

夜間や休日の電話
 対応を全て依頼
 (ファーストコールから全
 て当直医が対応)

※日中の連携は日単位。夜間連携は日単位または月単位。
 ※年末年始7日間・ゴールデンウィーク期間中は加算あり。
 ※原則として08:00~09:00/18:00~19:00は電話対応のみ。

【特色】

緊急時の対応をあらかじめ決め、当直対応を標準化

緊急時の往診や投薬などの対応、その判断基準について、連携する診療所の医師があらかじめ決めてカルテに記載。当直医の対応を標準化できる

電子カルテシステムを共有

悠翔会が開発した在宅医療向け電子カルテ「HOMIS」の使用を当直機能の利用条件としており、患者情報共有が可能に

電話対応の音声データを保存

当直時間帯の電話のやり取りは全て録音。患者からクレームがあった場合は、音声を確認した上で当直医にフィードバックするなどして診療の質を担保する

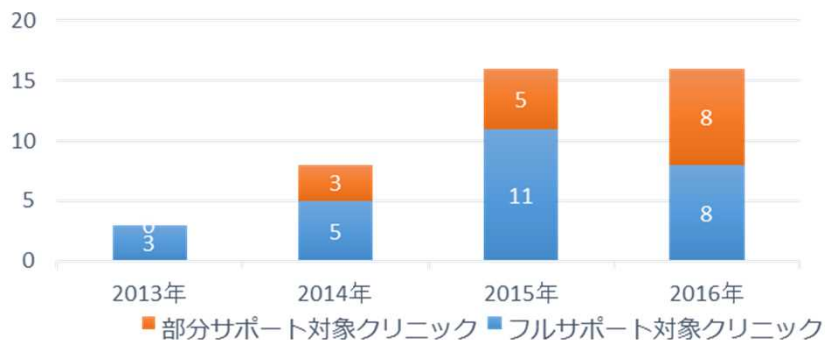
契約により責任の所在を明確化

バックアップする業務の範囲や時間帯を決めて契約を結ぶことで、責任の所在を明確にしている

【休日夜間の連携実績】

連携クリニック数の推移

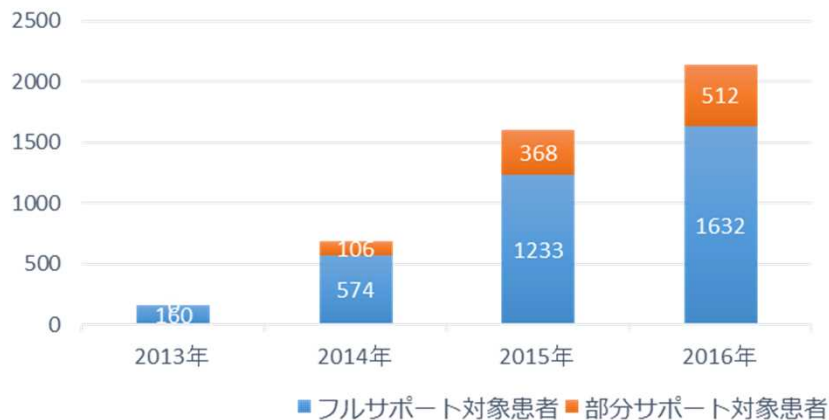
2012年より休日夜間の緊急対応の支援を試験的に開始。
2014年に1年以上の連携実績のある7クリニックにおいて、在宅患者数・在宅看取り数の増加、医師の負担軽減に対する満足度を確認。また、悠翔会内における定期的調査において、主治医以外の医師による緊急対応が患者満足度を犠牲にしていることを確認。
2015年より休日夜間対応機能の地域開放を本格的に進めた。



連携クリニックの支援対象患者数の推移

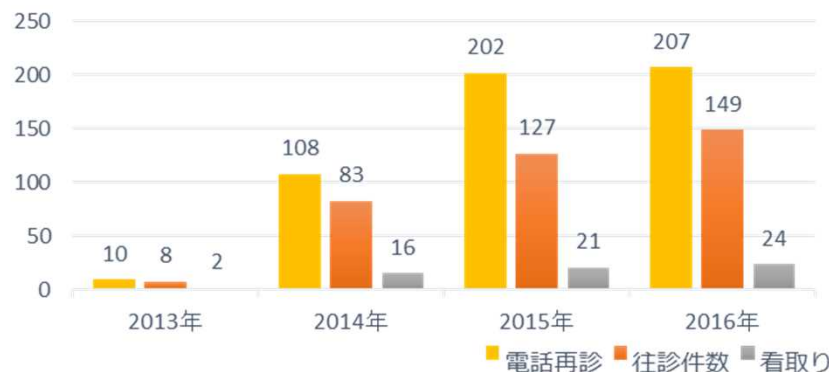
連携クリニック数の増加および個々のクリニックの管理患者の増加、この2つの要因により支援対象患者数は増加し続けている。

支援の形態には、主治医が対応できない日だけ支援する（部分サポート）、主治医は主に日中の診療に専念し、休日または夜間は休む（フルサポート）の2つのパターンがある。
フルサポートを選択している主治医のほうが、担当患者を増やす傾向がみられ、また施設患者の割合が多い傾向がある。



連携クリニックに対する緊急対応支援実績

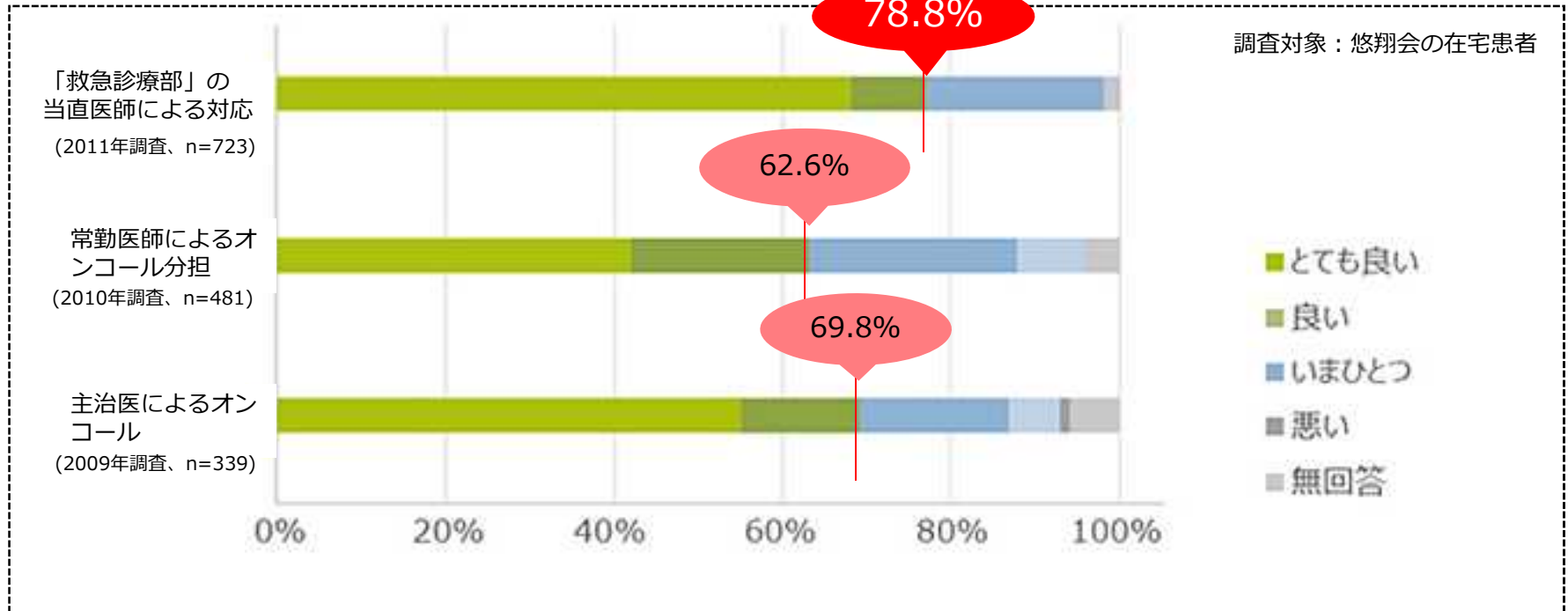
フルサポートを選択しているクリニックでも、実際には、主治医が対応しているケースも一定の割合で含まれている（患者による個別対応など）。施設入居者など、相対的に軽症患者が多いと予想される。急変が予測される患者には昼間のうちに往診しておくなどの対応の工夫をお願いしている。患者数の伸びに応じて、緊急対応の頻度は増えているが、患者あたりの緊急対応件数は低い。
※往診対応したものについては、電話再診は算定していない。



【患者満足度】

実際に夜間対応を受けた患者（電話再診＋往診）に対するアンケート調査より

佐々木理事長のスライド（一部改変）



夜間専任シフトの当直医師による対応が、最も高い評価を得ている